



Emergency Watch

発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 小児急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター

 2012年 11月受診者数：2376人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- | | |
|-------|-----------------|
| 1. 発熱 | ： 1014人 (674人) |
| 2. 嘔吐 | ： 900人 (630人) |
| 3. 咳 | ： 851人 (244人) |
| 4. 鼻汁 | ： 712人 (19人) |
| 5. 下痢 | ： 408人 (83人) |

疾患頻度

- | | |
|------------------|--------|
| 1. 感染性胃腸炎 | ： 887人 |
| 2. 急性上気道炎・咽頭炎 | ： 611人 |
| 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 | ： 204人 |
| 4. 気管支炎・肺炎 | ： 116人 |
| 5. グループ | ： 75人 |



今月のワンポイント!



12月に入り、ますます寒さが厳しくなってきました。11月の神戸こども初期急病センターへの受診者数は2376人で、前月より300人ほど増加しました。おもな症状は発熱が多く、次いで嘔吐、咳がみられました。最も多かった疾患は、感染性胃腸炎で、前月からさらに増加しました。

感染性胃腸炎は、特に寒い季節はノロウイルス、ロタウイルス感染によるものが多く、おもな症状は鼻水や咳、熱など、かぜの様な症状に突然吐き気がして嘔吐を何度も繰り返す、下痢をおこすようになります。とくに小さいお子さんや赤ちゃんがかかりやすく、脱水など重症化しやすい傾向があります。吐き気は2-3日くらいまでにおさまりますが、下痢は7-10日続くことが多く、とくにロタウイルス感染による下痢便の特徴は、水様便で、酸っぱいような汗くさいような臭いがあり、色が白っぽく、乳白色～黄白色～黄色となります。比較的元気であれば、少量頻回にイオン水など摂取させ、全く飲まず、食べない場合は脱水になったり、低血糖になる場合があるので、速やかに小児科医の受診をおすすめします。他の兄弟やお母さんお父さんにも感染することがよくありますので、便をさわったらよく手を洗いましょう。

また、これから流行するインフルエンザやRSウイルス感染症にも注意が必要です。インフルエンザは、例年12月から3月下旬に流行します。1-3日の潜伏期があり突然の高熱にぐったりする症状から始まります。気管支炎、肺炎、脳症などの合併症を起こすこともあり、できるだけ予防接種を行い、日頃から手洗い、うがいなどの感染予防をこころがけましょう。RSウイルス感染症は、乳幼児の代表的な呼吸器疾患で、毎年冬季に流行し、約半数以上が1歳までに、ほぼ100%が2歳までに感染し、その後も一生再感染を繰り返します。4-5日の潜伏期の後、鼻汁、咳、発熱などの上気道症状が現れます。3割くらいの人は炎症が下気道まで波及し、気管支炎や細気管支炎を発症し、咳の増強、呼吸性の喘鳴(ぜいぜいする)、多呼吸などが現れてきます。生後半年までの乳児に感染すると無呼吸を起こすこともあり、赤ちゃんでは特に注意が必要です。ぜいぜいしたり、呼吸が苦しそうな場合は、すぐに受診しましょう。また、飛沫や接触により感染するので、気道分泌物が付着した物の扱いに注意し、手荒いとうがいを励行しましょう。